

# 読者新聞

## リサイクル「独自技術」磨く

リサイクル機械の製造・販売などを手がけるエムダイヤ（富山県滑川市）は今年度、県の中小企業経営モデル企業に選ばれた。森弘吉社長は「一つの製品に対して、少なくとも一つ以上の特許と商標、様々な受賞歴を持つ」という高い目標を掲げ、強みの「独自技術」に磨きをかけている。（聞き手 加藤弘之）

△主力のリサイクル機械の製造・販売事業の強みはどこな点ですか？

「リサイクル機械と違って、素材（マテリアル）に戻すリサイクル機械を中心に行っています」

「強みの一つは分離・破碎技術です。主力製品の『エコーセパレ』は、異なる素材の混合物の破碎と分離を同時に行えます。使われなくなった小型家電やタイヤなどから、樹脂や鉄、ゴムなどを取り出すことができます」

「二つ目は切断の技術です。光ケーブルには、防弾チョップ



エムダイヤ本社（滑川市中村で）

エムダイヤ 2005年設立。コンセプトに「もったいない！」を大切に、を掲げ、滑川市と立山町に工場がある。社名のエムは、マシン（Machine＝機械）、メカニズム（Mechanism＝機構、仕組み）、メカニクス（Mechanics＝修理・整備）、メンテナンス（Maintenance＝補修・整備）代表者の名字（MORI）から、ダイヤは、タイヤと光る会社にしたという願いから



今後の事業展開について話す森社長（滑川市中村で）＝細野登撮影

1975年、上市町生まれ。国立富山高等専門学校（当時）富山工業高等専門学校で機械工学を学ぶ。専攻科へ進学。98年に大手工作機械メーカーに就職。2005年に退職し、新会社を設立。08年に社名をエムダイヤに変更し、社長に就任した。

### エムダイヤ（滑川市） 森弘吉 社長 49



キにも使われる切断しにくい繊維が使われているのですが、『エコーカッター』はきれいに切ることが出来ます。エアコンの室内機やコピー機のトナーカートリッジもスパッと切れ、中身を取り出しやすくなります」

「このほか、コンピュータの基板からチップだけをそぎ取り、希少金属を効率良く集められる『エコーレクター』があります。今年の県発明とくふう展で文部科学大臣賞を受賞しました。取り出した資源を粉碎して原料にできる『ローラーミル』などもあります」

「分離・破碎・切断、製錬、粉碎の独自技術をしつかり担保するため、日本だけでなく、米国や中国などの国際特許

商標を取るようになっています」

△独自技術を生かすビジネスモデルの特徴は？

「一つは『目前主義』です。製造する際、鋼材を買ってき、溶接、機械加工、組み立て、塗装、据え付けまで、全てうちの工場で完結する仕組みでやっています。部品を買ってきて組み立てるのではなく、工作機械を使って全部作り込んでいます。ほぼ100%、メイド・イン・ジャパン、メイド・イン・滑川、立山という感じです」

「もう一つは『直接販売』です。国内では、商社やエンジニアリング会社を通さずに、大手企業とも直接、取引しています。メンテナンスなどアフターサービスにも力を入れています」

「他社がまねできない独自技術があること、独自技術の

価値を、顧客にちゃんと理解していただけるようにすることが重要です」

「製品を知ってもらう、会社を知ってもらうまでは長い道のりで、いろんな引き合いがあれば、そのご縁を一つ一つ大切にしながら、今に至っています。コロナ禍の前は、少なくとも1年間に1000人以上の方と名刺交換をしていました」

△仕事で大切にしていることは？

「一番は、信用と信頼です。うちでは、信用というのは、今まで積み上げてきたもの、実績を信用と呼んでいます」

「信頼というのは、これから未来に向けて信じて頼れるかどうか、みたいなことを信頼と呼んでいます。信用、信頼される会社を目指しています」というふうに行っています」

### 「総合環境企業」へ人材育成

世界の環境問題を改善し、社会に貢献できる「総合環境企業」を目指すため、人材育成にも力を入れている。

製造現場では、一人で三役、四役をこなし、何でもできる「究極の多能工」に育つことも一つの目標にしている。溶接、機械加工、塗装、組み立てなど、製造にかかわるあらゆることに携われるように教育している。

営業担当も、顧客訪問だけでなく、仕様書を書き、破碎試験の依頼書や報告書を作成するほか、プログラムの作り込みにかかわることもある。そんな人材だからこそ、社

### 小学生時代に車解体

機械好きは幼い頃から。おもちゃの動く仕組みを知るため、持っている工具で分解したものの、元に戻せずに壊してしまい、買ってくれた両親に怒られることもよくあった。

小学生の時には、父親から「好きにバラしていいぞ」と、廃車予定の車を与えられ、自分の工具箱の道具で、解体に挑戦したこともある。配線や電球、スピーカーの仕組みなど、自分なりの発見があり、楽しい思い出となっている。